

「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：総合型選抜 1次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。1次選考の集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを的確に表現できているか、また話し合いに臨む姿勢などを試した。</p> <p>2024年度総合型選抜1次選考における集団討論では、試験当日に同一の課題を示した。課題概要は、「地球が減りゆくという架空の状態を設定し、人類が完全に滅びる前にロケットに6人だけ乗せて他の惑星に送り出す最高決議機関の一員に（あなたが）なると仮定し、脱出するメンバーを選ぶ」というミッションを受験生に提示し、「候補者リストを参考にして、グループとしての選考結果をまとめる」ことを求めた。その際、「誰を選んだのかは、試験としての評価には含まれません。」ことを明示した。出典は川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』を参考に、出題にあたり一部変更を行ったものである。</p> <p>評価のポイントとしては、お互い（同じグループの受験生同士）を大切にしながら、相手の意見をよく聴き、自分の意見、考えをわかりやすく表現しているか、といったコミュニケーションの状況に着目した。多岐にわたる論点が存在する課題に関する自らの考えを、他者との意見交換を通じて深めつつ、議論のとりまとめに協働して貢献することができるか、ということを見定めた。</p> <p>入学後、「地域創生」の担い手としての使命感を保持しつつ、地域の方々と有意義な協働を進めていくための基本的なコミュニケーション能力を有しているか、という点を重要な評価基準とした。</p>

「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：総合型選抜 2次選考） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：小論文・個別面接）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。2次選考の小論文では、地域創生にも関連する社会課題に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>■小論文について</p> <p>今回の小論文試験の出題文は、地域創生に関連すると考えられる文章の中から、次の2点を念頭に置きながら、選定した。1点目は、地域創生においては地域社会が直面する課題を的確にとらえる力が必要であると考えることから、課題の構造を読み解くことに関連するような文章であること、2点目は、比較的平易な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は林直亨（2022）『学び合い、発信する技術 —アカデミックスキルの基礎』岩波ジュニア新書、の該当箇所を出題文として選定した。</p> <p>設問は「次の文章は、アカデミックスキルとリーダーシップに関するものである。サーバントリーダーシップとはどのようなリーダーシップなのか、執筆者の説明に基づいて400字以内でわかりやすくまとめなさい。」とし、問題文に書かれている内容をまとめる作業を志願者に求めた。現代社会においてチームとして力を発揮できるようなリーダーシップのあり方等に関する文章について、論点を的確かつ論理的にまとめられている答案を高評価とした。</p> <p>■個別面接について</p> <p>地域創生への強い関心を有しているか、これまで主体的に活動してきたことをわかりやすく説明できるかが評価ポイントの一つであった。また、面接官との質疑応答において、質問の意図を理解した上で自らの考えを適切に表現できているかを評価とした。</p>